

後期

後期研究員検証授業開始

～豊見城市立豊見城小学校 渡邊昌幸教諭～



島尻教育研究所では、10月に入所した後期研究員の検証授業がスタートしました。1月16日(火)は第1回目で、渡邊昌幸豊見城小学校教諭が道德の授業を同校で行いました。

次年度から「特別の教科道德」として時代の要請に応じて指導の強化が図られる道德において、渡邊教諭は「考え、議論する道德授業」を目指し、問題解決のプロセスを学ぶことができる指導過程とワークシートの工夫で授業に臨みました。また、「規範づくりの道德授業」で学級独自の規範をつくり、規範を遵守しやすい環境を設定。同時に、問題解決的な学習で学んだ道德的判断・理由の検討の仕方を生活の中で出会うであろう道德的問題の解決に生かすよう導き、自ら道德的問題の解決に迫るように工夫しています。

授業では、「決まりはないけれど」という教材で、お楽しみ会において好きな人同士でチームを作ってよい、というルールの下、バスケットクラブに入っている3人が同じチームになるかならないかで主人公が葛藤する教材でした。「3人が同じチームになる」に、賛成・反対の意見をグループで話し合い、集約して代表者が発表しました。さらに「学級のみんなが楽しむためには」「みんなが幸せになるには」の視点で意見を吟味し、「その他に方法はないか」検討し、最終判断をワークシートにまとめる作業をしました。授業研究会では「考え議論する道德」の理論と時代背景について指導講師の新垣千鶴子先生から詳しい説明がありました。「特別の教科道德」を先取りするようすばらしい授業で検証授業期間がスタートしました。

＜研究テーマ＞

生きて働く道德的資質・能力を育てる道德教育の研究
～「考え、議論する道德授業」と道德的環境づくりを通して～

＜研究仮説＞

- ①問題解決的な学習を生かした「考え、議論する道德授業」において、児童が問題解決のプロセスを学ぶことができるように指導過程とワークシートを工夫する。
- ②「規範づくりの道德授業」で学級の規範をつくり、規範の遵守態度が育ちやすい道德的環境をつくる。
- ③問題解決的な学習で学んだ道德的判断・理由の検討の仕方を生活の中で出会うであろう道德的問題の解決に生かすよう導き、自ら道德的問題を解決できるようにする。



授業は多くの大学生も参観



構造的な板書で考えを共有



指導講師の新垣千鶴子先生

検証授業を終えて(渡邊昌幸教諭)

今日は、研究員中のトップバッターの検証授業でした。これまでの成果が問われる大切な授業でしたので、指導案、授業で使う掲示物、ワークシートなど細部にわたって指導講師と検討し準備を重ねてきました。その準備の甲斐もあってあまり緊張せずに授業を行うことができました。これまでの積み重ねの成果があった一方で、時間配分での課題や話し合いの活発さに課題が残りました。課題はしっかりと受け止め、今後、改善していけるようにしていきたいと思えます。また、児童の頑張る姿を見てとても嬉しく思いました。無事に終える事ができ、みなさんに感謝致します。残り期間も気を引き締めて頑張ります。

